



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年2月2日

上場会社名 大正製薬ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4581 URL <http://www.taisho-holdings.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 上原 明
 問合せ先責任者 (役職名) 広報室長 (氏名) 坪井 正樹 (TEL) 03-3985-2020
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績（平成23年4月1日～平成23年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	211,198	—	34,939	—	41,103	—	21,014	—
23年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 18,555百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 —百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年3月期第3四半期	254	20	—	—
23年3月期第3四半期	—	—	—	—

(注) 当社は、平成23年10月3日に単独株式移転により設立されたため、前年同四半期実績はありません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	627,772	542,571	84.7
23年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 531,573百万円 23年3月期 —百万円

(注) 当社は、平成23年10月3日に単独株式移転により設立されたため、前期実績はありません。

2. 配当の状況

	年間配当金							
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
23年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—
24年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	—	—	—	50	00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

(注2) 当社は、平成23年10月3日に単独株式移転により設立されたため、前期実績及び当第2四半期までの実績はありません。

3. 平成24年3月期の連結業績予想（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	270,500	—	36,500	—	43,500	—	23,000	—	279	71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期3Q	90,139,653株	23年3月期	一株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	8,008,946株	23年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年3月期3Q	82,668,765株	23年3月期3Q	一株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(その他特記事項)

1. 当第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）の四半期連結財務諸表は、単独株式移転により完全子会社となった大正製薬株式会社の四半期連結財務諸表を引継いで作成しております。
2. 当四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）は、当社設立後最初の四半期連結会計期間ですが、「第3四半期連結会計期間」として記載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、平成23年10月3日に単独株式移転により大正製薬株式会社の完全親会社として設立されましたが、連結の範囲に実質的な変更はないため、前年同四半期と比較を行っている項目については大正製薬株式会社の平成23年3月期第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）と、また、前連結会計年度末と比較を行っている項目については大正製薬株式会社の平成23年3月期連結会計年度末（平成23年3月31日）と比較しております。

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

セルフメディケーション事業分野の中心であるOTC医薬品市場は、鼻炎治療剤や皮膚用薬など一部に好調な分野があったものの、全体としては大雨や台風など夏場の天候不順による販売減少が響き、低調裡に推移しました。

医薬事業分野につきましても、新薬の創出が困難になりつつあるなか、世界的な承認審査の厳格化や医療費適正化諸施策の浸透などにより、厳しい事業環境が続いております。

こうした事業環境の中で、当社のセルフメディケーション事業部門は、生活習慣病などの成長領域に積極的に取り組み、情報提供と店頭販促をより一層強化するなど、国内外の市場の活性化に努めております。

医薬事業部門も、情報提供活動を中心とする営業力の強化を図るとともに、自社オリジナル開発物質の継続的な創出と開発研究のスピードアップに努めております。

このような事業活動により、当第3四半期連結累計期間のグループ全体売上高は、2,111億9千8百万円余（前年同四半期比+34億7千万円余、1.7%増—以下括弧内文言「前年同四半期比」省略）となりました。

事業部門別の売上高は次のとおりであります。

セルフメディケーション事業	1,301億円余	(△ 10億円余	0.8%減)
内訳			
一般用医薬品等	1,182億円余	(△ 15億円余	1.3%減)
特保・食品等	98 〃	(+ 5 〃	5.5%増)
その他	20 〃	(△ 0 〃	1.0%減)
医薬事業	810億円余	(+ 44億円余	5.9%増)
内訳			
医療用医薬品	747億円余	(+ 39億円余	5.5%増)
中間製品等	62 〃	(+ 5 〃	9.1%増)
工業所有権等使用料収益	1 〃	(+ 0 〃	43.8%増)

両事業部門主要製品の売り上げ状況は次のとおりです。

<セルフメディケーション事業>

当第3四半期連結累計期間売上高は、1,301億円余（△10億円余、0.8%減）となりました。

ドリンク剤の「リポビタミンシリーズ」は、「リポビタミンDスーパー」や生活者の低カロリー志向に対応した「リポビタミンファイン」などが伸長したものの、主力の「リポビタミンD」が夏場の天候不順の影響などにより前年を下回り（3.4%減）、シリーズ全体では、566億円余（3.2%減）となりました。

風邪薬「パブロンシリーズ」は、例年よりも花粉飛散量が多かったことで鼻炎関連商品が伸長したことに加え、主力の総合感冒薬も秋以降順調に推移し、シリーズ全体では187億円余（2.1%増）となりました。

発毛剤「リアップシリーズ」は、11月に発売した「リアップリジェンヌ」が寄与したものの、前年度4月に日本皮膚科学会が公開した男性型脱毛症診療ガイドラインの報道による伸長の反動から、主力の「リアップX5」が前年比でマイナスとなり、シリーズ全体で111億円余（4.4%減）となりました。

その他のブランドでは、「ナロンシリーズ」は31億円余（13.7%減）、「胃腸薬シリーズ」は33億円余（0.9%減）、「コーラックシリーズ」は29億円余（0.9%減）、ミニドリンク剤の「ゼナシリーズ」は24億円余（6.0%減）と前年を下回りました。

特保・食品等の「リビタシリーズ」は、グルコケア粉末スティック等の粉末シリーズが引き続き好調で、28億円余（11.0%増）となりました。

一方、現在注力中のアジアOTC事業では、タイ、インドネシア市場を中心に順調に売り上げを伸ばしたほか、当第3四半期よりホウ製薬の売上高が寄与し45億円余（30.8%増）となりました。

<医薬事業>

当第3四半期連結累計期間売上高は、810億円余（+44億円余、5.9%増）となりました。

主力品のマクロライド系抗菌薬「クラリス」は159億円余（3.8%減）、末梢循環改善薬「パルクス」は74億円余（5.1%減）と前年比マイナスとなりましたが、β-ラクタマーゼ阻害剤配合ペニシリン系抗菌薬「ゾシン」は136億円余（19.8%増）、キノロン系抗菌薬「ジェニナック」は48億円余（49.5%増）、ニューキノロン系抗菌薬「オゼックス」は45億円余（47.4%増）と、好調に推移しました。また、本年4月に発売した骨粗鬆症治療剤「エディロール」は11億円余となりました。

その他の製品では、非ステロイド性消炎鎮痛剤「ロルカム」は26億円余（5.3%減）、注射用ペニシリン系抗菌薬「ペントシリン」は24億円余（16.5%減）、セフェム系抗菌薬「トミロン」は16億円余（11.6%減）と減少しました。

中間製品等の売上高は62億円余（9.1%増）となりました。

工業所有権等使用料収益は、1億円余（43.8%増）となりました。

コスト面につきましては、研究開発費、販売促進費等の増加により、販売費及び一般管理費が前年よりも増加し、営業利益は349億3千9百万円余（13.3%減）、経常利益は411億3百万円余（5.8%減）となりました。また、投資有価証券評価損36億円余を特別損失に計上したことや、改正法人税法及び復興財源確保法に伴う税率変更により繰延税金資産の計上額が減少したことなどから、四半期純利益は210億1千4百万円余（19.0%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ93億円余増加し、6,277億円余となりました。主な増加要因は売上高増加及び期末日休日影響を主因とする受取手形及び売掛金の増加242億円余、海外子会社取得に伴うのれんの増加79億円余、自己株式取得の為の金銭の信託の増加を主因とするその他流動資産の増加161億円余であり、主な減少要因は関係会社株式及び投資有価証券の取得を主因とする現金及び預金の減少439億円余です。

負債は、前連結会計年度末に比べ19億円余増加し、852億円余となりました。主な増加要因は支払手形及び買掛金の増加44億円余、繰延税金負債の増加25億円余であり、主な減少要因は未払法人税等の減少47億円余です。

純資産は、前連結会計年度末に比べ73億円余増加し、5,425億円余となりました。主な増加要因は四半期純利益210億円余であり、主な減少要因は配当金の支払による剰余金の減少74億円余、純資産控除項目である自己株式の取得34億円余です。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期売上高、営業利益につきましては、平成23年10月12日に公表しました業績予想から変更はありません。

経常利益につきましては、持分法投資損益の改善などを見込み、上方に修正致します。当期純利益につきましては、第3四半期に計上した投資有価証券評価損と改正法人税法及び復興財源確保法に伴う税率変更による影響を織り込み、下方に修正致します。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間
 (平成23年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	89,434
受取手形及び売掛金	89,437
有価証券	13,538
商品及び製品	12,292
仕掛品	2,191
原材料及び貯蔵品	9,193
繰延税金資産	6,599
その他	19,852
貸倒引当金	△237
流動資産合計	242,303
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	43,111
機械装置及び運搬具(純額)	6,758
土地	35,277
建設仮勘定	3,512
その他(純額)	2,724
有形固定資産合計	91,384
無形固定資産	
のれん	21,337
販売権	9,179
商標権	5,504
ソフトウェア	2,559
その他	446
無形固定資産合計	39,028
投資その他の資産	
投資有価証券	190,767
関係会社株式	46,779
長期前払費用	1,024
繰延税金資産	11,535
その他	5,074
貸倒引当金	△124
投資その他の資産合計	255,057
固定資産合計	385,469
資産合計	627,772

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間
(平成23年12月31日)

負債の部

流動負債

支払手形及び買掛金	29,464
短期借入金	636
未払金	12,807
未払法人税等	3,270
未払費用	8,381
返品調整引当金	521
賞与引当金	1,709
災害損失引当金	140
その他	2,042
流動負債合計	58,975

固定負債

長期借入金	144
退職給付引当金	17,515
役員退職慰労引当金	1,510
繰延税金負債	3,048
その他	4,006
固定負債合計	26,225

負債合計

85,201

純資産の部

株主資本

資本金	30,000
資本剰余金	15,000
利益剰余金	547,262
自己株式	△50,197
株主資本合計	542,064

その他の包括利益累計額

その他有価証券評価差額金	357
為替換算調整勘定	△10,848
その他の包括利益累計額合計	△10,491

少数株主持分

10,998

純資産合計

542,571

負債純資産合計

627,772

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	211,198
売上原価	76,455
売上総利益	134,743
返品調整引当金戻入額	475
返品調整引当金繰入額	511
差引売上総利益	134,707
販売費及び一般管理費	99,767
営業利益	34,939
営業外収益	
受取利息	3,799
受取配当金	1,075
持分法による投資利益	996
不動産賃貸料	38
その他	460
営業外収益合計	6,370
営業外費用	
支払利息	8
支払手数料	115
その他	82
営業外費用合計	206
経常利益	41,103
特別利益	
固定資産売却益	180
災害損失引当金戻入額	437
ゴルフ会員権売却益	1
特別利益合計	618
特別損失	
固定資産処分損	135
投資有価証券評価損	3,668
ゴルフ会員権売却損	10
特別損失合計	3,814
税金等調整前四半期純利益	37,907
法人税等	16,248
少数株主損益調整前四半期純利益	21,659
少数株主利益	644
四半期純利益	21,014

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	21,659
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△1,457
為替換算調整勘定	△1,483
持分法適用会社に対する持分相当額	△162
その他の包括利益合計	△3,103
四半期包括利益	18,555
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	17,957
少数株主に係る四半期包括利益	598

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計 (注2)
	セルフメディ ケーション事業	医薬事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	130,121	81,077	211,198	—	211,198
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	130,121	81,077	211,198	—	211,198
セグメント利益	30,640	4,765	35,405	△466	34,939

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社（純粋持株会社）であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「セルフメディケーション事業」セグメントにおいて、ホウ製薬ホールディングス株式会社の株式を取得し、第2四半期連結会計期間より、連結範囲に含めております。これに伴うのれんの増加額は、当第3四半期連結結果計期間において8,913百万円であります。なお、取得した資産及び引き受けた負債のうち、企業結合日における識別可能な資産及び負債の特定が未了であるため、取得原価の配分は完了しておりません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。